

スクラップ&ビルドについて

1. 現状と課題

本市では現在、公共施設再編計画の策定を進めており、老朽化している施設の集約化や複合化、多機能化に関する大枠の方向性を本年度中に示す予定としている。

一方で、行政サービスについては、社会情勢の変化や市民ニーズの多様化に対応するため、新たな事業や制度を追加しながら行政運営を行ってきた経過がある。その結果、新たな事業や制度が追加される一方で、既存事業の必要性や効果を改めて検証し、終了や縮小を含めた見直しを行う機会は必ずしも十分ではなかった。

今後、新たな行政課題への対応や重点施策の推進に必要な財源を確保していくためには、新たな事業を実施するだけでなく、既存事業についても継続を前提とせず、必要に応じて見直しを行う「事業のスクラップ&ビルド」の視点が必要である。

今回の審議会では、主に、市が実施している事業の見直しやあり方についてご意見をいただきたい。

2. 検討の視点

今後、新たな行政課題への対応や重点施策の推進を図るためには、新規事業の実施だけでなく、既存事業の見直しについても検討していく必要がある。このため、市独自事業や国・府の上乗せ事業の在り方、見直しの対象とすべき事業の考え方、限られた財源の中で事業を実施していくための方向性について、ご審議いただきたい。

3. ご審議いただきたい事項

(1) 市独自事業のあり方について

市独自事業とは、国や京都府の制度によらず市が独自に実施している事業や、国・府の制度に市が独自の財源を上乗せして投入し、サービスの充実を図っている事業をいう。

これらの施策は、市民ニーズや地域課題に応じて柔軟に対応できる一方で、一度開始すると長期間継続する傾向もある。今後、市独自事業はどのような考え方で実施・継続していくべきか。

■主な論点

- ・市独自事業はどのような場合に実施すべきか
- ・国や府の制度との役割分担をどのように考えるべきか
- ・国や府の制度が充実した場合、市独自事業は見直すべきか
- ・市独自事業として実施すべきものとそうでないものの基準をどのように考えるか
- ・他自治体との差別化として上乗せをどう考えるか 等

(2) 事業を見直す際の判断基準について

限られた財源や人員の中で行政サービスを持続的に提供していくためには、事業の必要性や効果を定期的に検証していくことが重要である。今後、どのような視点や基準で事業の見直しを行うべきか。

■主な論点

- ・ 開始当初の目的が達成されているか
- ・ 利用状況に見合った事業となっているか
- ・ 社会情勢や市民ニーズの変化に対応しているか
- ・ 国や府制度との役割分担が整理されているか
- ・ 行政以外の主体でも実施可能か
- ・ 費用に見合う効果が得られているか 等

(3) スクラップ&ビルドを進めるために必要な考え方について

新たな行政課題へ対応していくためには、新規事業の実施だけでなく、既存事業の見直しも必要となる。

今後、本市がスクラップ&ビルドを進める上で、どのような考え方が必要か。

■主な論点

- ・ 新たな事業を実施する際には、既存事業の見直しも併せて検討すべきか
- ・ 全ての行政サービスを維持するのではなく、重点分野への資源配分を進めるべきか
- ・ 市民ニーズがあっても見直しを進めるべき事業はあるか
- ・ 利用者が少数であっても継続すべき事業はあるか
- ・ 行政サービスの水準は維持を前提とすべきか、それとも時代に応じて見直すべきか
- ・ 事業の廃止や縮小に伴う市民理解をどのように考えるべきか
- ・ 限られた財源を踏まえ、行政はどこまでサービスを提供すべきか 等